令和５年６月

学校関係者評価報告書

学校法人名古屋大原学園
大原法律公務員専門学校 津校
学校関係者評価委員会

令和５年３月に実施しました、自己点検・自己評価の結果をもとに、学校関係者評価の実施を行いました。「１．教育理念・目標」以下 10 項目にわたり、学内で評価された問題点とその改善のための方策並びに両者に関する関係者からの評価と助言を掲載します。

１．教育理念・目標

【課題】

全体として「適切・ほぼ適切」の評価である。

【今後の改善方策】

今後も各職員が学校の「教育理念・目的・育成人材像」をしっかりと認識した上で、社会経済のニーズ等を踏まえた将来構想を立てることが必要である。

学生の公務員としての職業意識を高めるため、社会貢献意識を育てるボランティア活動に参加しやすくするきっかけとして、例年「津まつり」ボランティアや「地域の防災訓練」ボランティアなどの紹介をしている。令和４年度は「津まつり」ボランティアには参加できたが、コロナ禍でボランティア活動が難しい状況であった。今後は学生の公務員としての職業意識を高めるため、様々な官公庁説明会に参加したり、ボランティア活動に参加したりする機会を増やしていきたい。

【関係者評価】

学園運営計画書を配付し職員全体で教育理念の共有を行っていることは大変評価できる。配付後も職員朝礼で定期的に教育理念の確認を行う取り組みを継続し浸透を図ってほしい。ご家族との理念共有も重要である。すでに行われているようだが、ご家族に電話等で連絡する際は、今後も事務的な連絡にとどまらず教育理念を伝え、理念の共有を行ってほしい。また、コロナが収束に迎えつつある中で、社会で必要とされるスキルが変化しているので、アンテナを高くして社会ニーズを捉えてもらいたい。

２．学校運営

【課題】

全体としての「適切・ほぼ適切」の評価である。

⑧「情報システム化等による業務の効率化が図られているか」について、今後もこれまで以上にＤＸ化を図り、業務の効率化を図りたい。

【今後の改善方策】

⑧の業務効率化については、今後もレベルアップを図る工夫は継続していく必要がある。

また、学校のホームページやツイッターで個人情報を掲載する場合、今後も細心の注意を払い掲載していく。

【関係者評価】

昨年度より取り組まれているＤＸ化について、継続して行われているとのことであり、また、リスキリングとして職員のデジタル能力を向上させる取り組みは大いに評価できる。学校では多くのセンシティブな個人情報を取り扱っているので、各種データの取り扱いには細心の注意を図り、情報の流出など事故を起こさないようシステム改善と共に職員教育を継続していただきたい。

３．教育活動

【課題】

全体としての「適切・ほぼ適切」の評価である。

公務員という職業柄、業界との連携は難しい部分もあるが、公務員の業務説明会開催など今後も工夫していく必要がある。

【今後の改善方策】

⑫について、関連分野の業界である役所との産学連携が難しいが、関連業界との連携に限らず、優れた教員確保をすることが引き続き必要である。

⑬について、関連分野の業界団体である市役所・警察本部・自衛隊等の外部関係者から知識を習得したり、職員自身が時代に対応した知識を取得したりしていくことが必要である。

【関係者評価】

授業計画表（シラバス）に基づいた授業を着実に行っていただきたい。同時に教育のデジタル化の流れる乗り遅れることがないよう、職員のデジタル機材の利用技術を向上させるとともに、今後ますます社会で必要とされるデジタル化に対応するスキルを身に付けた学生を育成していただきたい。さらに、就職後のミスマッチをなくすために、今後の官公庁の説明会開催や官公庁の見学会を積極的に行うべきである。

４．学修成果

【課題】

全体として「適切・ほぼ適切」の評価である。

③について、高校時代から不登校ぎみであったり、鬱等を患ったりと心配な学生が増え、退学に結びつく可能性が高くなっている。

④「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」について、卒業生の動向を把握するための最適な方法を検討していく必要がある。

【今後の改善方策】

③については、クラス担任や授業担当者が学生個々の状況をいち早く把握し、悩みや進路について可能な限り面談を実施。また必要に応じ、ご家族・学生・クラス担任の三者面談も実施する。今後も継続して、退学者の低減を図っていく。

④について、今後も卒業生の就職状況を専門課程総合案内書や学校の掲示版に掲載し、学生や入学希望者へ進路選択情報としてより効果的に提供していく。また、役所に勤務した卒業生を学校に招き、役所の様子や仕事のやりがいを話してもらう機会を設けたり、官公庁の人事担当から機会があるごとに卒業生の状況を把握したりする。さらに卒業生に対してのLINE等を活用し最適なアンケート実施方法を検討していく。

【関係者評価】

一般的に長期の休暇後に学校に登校できなくなる学生が多いと聞いている。長期の休暇期間中も本人や保護者との定期的な連絡を取り合い、長期休暇明けの退学防止を図っていただきたい。また、学園のカウンセリング制度を利用する方がいないとのことであるため、相談に関する敷居を低くし利用を促すか、または、信頼関係を構築することがポイントになると思われるが診療内科への受診も促していただきたい。

卒業生の活躍を卒業生向けの LINE を開設されたが、登録者数やアンケートの回収率が伸び悩んでいるとのことだが、登録・回答することのメリットを卒業生に発信しアンケート回収率の向上に努めるべきである。

５．学生支援

【課題】

全体として「適切・ほぼ適切」の評価である。

④について、今後も遅刻日数や欠席日数が規定数を超えた学生や自宅外通学している学生には、クラス担任からご家族に連絡相談を今後も継続していく必要がある。

⑤についてコロナ禍では難しかったが、アフターコロナにおいては学生が本気モードで楽しむ「キャンパスライフ」が送れるように、学生同士が交流できる課外活動の実施を推進していく必要がある。

【今後の改善方策】

④について、遅刻日数や欠席日数が規定数を超えた学生や自宅外通学している学生には、今後もクラス担任からご家族に連絡相談を継続し、学校長以下全教職員が面談・相談できる機会を増やしていく。

⑤についてコロナ禍では難しかったが、アフターコロナにおいて学科や学年を超えた交流の場として、バレーボール大会などの課外活動を実施するとともに、トレーニングルームの有効活用を模索していく。

⑧について、卒業生が学校で勉強する機会を増やすため、卒業生の附帯教育の講座割引制度を今後も継続して周知していく。

【関係者評価】

クラス担任制の強みを発揮し、担任が学生一人一人に寄り添った細やかな対応をしていただきたい。同時に、職員間の情報共有を積極的に行い、クラスの問題を横のつながりで解決するとともに、責任

者が積極的に担任をサポートしてほしい。課外活動である学生のボランティア参加は学校の地域貢献につながるとともに、学生の就職活動においても重要なＰＲ要素となるため、学校全体で学生のボランティア参加を支援していただきたい。

６．教育環境

【課題】

全体として「適切・ほぼ適切」の評価である。②③については今後レベルアップを図りたい。

【今後の改善方策】

②についてコロナ禍では難しかったが、今後、可能であれば、税務職員志望の学生に津税務署職場体験を兼ねたアルバイト、自衛隊志望の学生に自衛隊生活体験や基地見学、警察官志望の学生に三重県警察本部の「若樫サポーター」への参加を促していく。また、③の防災に対する体制について、昨年度、新たに防災マニュアルを作成したので、それに基づく研修を行い、より万全の防災体制を整えるとともに、学内防災訓練の実施を進めていく。

【関係者評価】

パソコン教室の PC を入れ替え、MOS や日商簿記検定を学内の PC で受験できるようにした点は大変良い。公務員を目指す学生もこれら資格取得に取り組んでもらいたい。更に、一般の方にも受験会場として開放することで大原の知名度を上げていただきたい。防災備品については、万が一に備え備蓄を行っていただきたい。

７．学生の受入れ募集

【課題】

全体として「適切・ほぼ適切」の評価である。　引き続き適正な募集活動を行っていくが、今後も学生への経済的負担軽減措置が重要な課題となる。

【今後の改善方策】

今後も学生への経済的負担軽減措置の充実を図っていく。高等教育の修学支援新制度の認定校で支援体制が整っているので、今後も周知徹底し、事務処理等をスムースに進めることができるようにしていきたい。

【関係者評価】

学生受け入れにあたり入学希望者に適切な情報を伝える取り組みを継続していただきたい。さらに、高校訪問を通じて卒業生の大原での状況を伝えて、高校の先生が安心して大原を勧められるようにしていくべきである。学費に関しては今後も適正な価格を維持していただきたい。

８．財務

【課題】

全体として「適切・ほぼ適切」の評価である。

専門課程入学者は一定数おり、学校の財務基盤は安定している。

【今後の改善方策】

全項目「適切・ほぼ適切」の評価となっているが、中長期的な学校の財務基盤安定のため、安定かつ確実な学生募集を図る必要があり、進学ガイダンスをはじめ積極的な募集活動を今後も実施していく。また、経費削減のために、消耗品等在庫管理を徹底していく。

【関係者評価】

昨年度同様、財務は安定しており情報公開も適切に行われている。この状態を継続してもらうとともに、物価上昇下ではあるが適切な経費管理を行い更なる財務安定を図っていただきたい。

９．法令等の遵守

【課題】

全体としての「適切・ほぼ適切」の評価である。

【今後の改善方策】

全項目「適切・ほぼ適切」の評価となっているが、④について、今後も自己点検・自己評価を継続的に実施し、年３回、学期末に開催される職員会議で各職員共有しさらなる改善をしていく。

【関係者評価】

個人情報保護法や著作権について研修を実施されたことは評価できる。学生の作成物等の作成の際に研修されたことを活かしていただきたい。また、若者の SNS の情報発信による問題が昨年は多く出たが貴校においてそのようなことが無いように、情報発信による社会的な問題や情報リテラシーを教育していただきたい。

１０．社会貢献・地域貢献

【課題】

全体として「適切・ほぼ適切」の評価である。

【今後の改善方策】

①について、今後も地域住民の学校施設を利用した町内会の開催など、地域貢献の機会を増やしていく。また、地域の住民の災害時における校舎利用が考えられるため、防災計画と合わせ、できる範囲内での協力を行っていく。

②について学校の所在する街の住民の高齢化が進み、地域住民の方々が災害時の避難・救助に危機感を感じているので、今後も学生が地域の防災訓練にボランティアとして参加できるよう継続して紹介していく。

【関係者評価】

各市町村のイベントの再開により、ボランティア募集が増加してきていると思われる。学生に対してボランティア参加を積極的に促し、活動参加を通じて社会性を養うとともに、公務員を目指す学生に相応しい「人のために尽くす公共心」を育む機会を提供していただきたい。

学校関係者評価委員会

役職	氏　　名	現　職
委員長	中嶋　年規	三重県議会議員
委員	新山　英治	元 高宮小学校校長、元 大谷町自治会長
委員	村主　英明	地域プランナー